

相良地区災害公営住宅内覧会「茶話会」

相良地区災害公営住宅内覧会（12月2・3日）で支え合いセンター主催の茶話会を開催しました。令和6年1月からの入居に向けて、間取りの確認や購入するものについての相談等、様々なお話をうかがうことができました。入居者同士、久しぶりに顔を合わせる方もおられたようです。

県トラック協会の引っ越し相談ブースもあり、引っ越し業者が決まっていな方が見積もりの相談をされていました。



相良地区災害公営住宅では、今後も茶話会を開催予定です。日程等は、また改めてお知らせします。

西間上第二仮設では、普段から自主的にお茶会をされています。みなさん自然に集まるようになり、今では月3～4回屋前から集まり、広報人吉配布後は必ずお茶会をして労をねぎらっておられます。

一人暮らしの方が多く、情報交換の場、健康状態確認の場、そして一番大切な、人とのふれあいができる場所になっているとお話されました。

西間上第二仮設は、活用用住宅（市営住宅）として残っていく仮設なので、これからも色々な話をしながら楽しいお茶会を続けていきたいとのこと。皆さまのご参加をお待ちしております。

インターネットで人吉市の情報を調べたり、お互い教え合ってます。



集まっておしゃべりすると認知症予防になってよか～。

皆さん、遠慮なく参加してください♪

人吉市地域支え合いセンター



スマイルだより

No.7
2024.1

被災された方々が生活再建できるよう、見守りや生活・健康支援や地域交流の促進など総合的な支援を行っています。

編集発行 人吉市地域支え合いセンター
人吉市西間下町4番地1
☎ 0966-24-5570

新年あけましておめでとうございます。皆様には新春を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。

前回に引き続き、相談員紹介を兼ねて手記を掲載します。中村・高橋相談員は、現役のくらし見守り相談員で、担当町内は紺屋町・大工町・鍛冶屋町・上青井町です。

私達は、被災後少しずつ住居の再建が進む中、在宅家庭を支え合いセンターの相談員として訪問させて頂くようになりました。

支え合いセンターからの資料片手に一軒一軒お伺いし、留守、所在不明なお宅が結構有り、なかなかお会いできなくて、町内会長さんや民生委員さんへお尋ねしながらの相談員スタートとなりました。

お一人お一人、被災状況、お困り事、健康状態、今後の生活等をお聞きしたり、不安な事もお聞きしました。自営業を営まれている世帯が多く、自宅の再建だけでなく、お店や事務所の再建についてお話をうかがうこともありました。雨が降ると思い出される怖さをひしひしと感じて、雨が降る度に川の様子を見に行く事も度々有りました。

被災者の方々が再建されて元気に過ごされる様になられる迄、寄り添う事を念頭に訪問を続けます。

（2班 中村郁子・高橋由紀子）



私たち頑張っています！

工藤 喜代美 様

7月4日の朝、市長からの避難の呼びかけを聞き、スポーツパレスに避難するため、まずは妹宅へ向かいました。道路に水が流れているのが見え、その後あっという間に水位が上がり、塀を越えて水が来たのでスポーツパレスには行けず、妹宅から出ることができなくなりました。水が胸まで上がってきましたが、水が引くまでなんとか耐え、生死に差は無いとしみじみ思いました。

翌日にはあさぎり町の親戚宅に行き、被災した自宅の片づけは、熊本から親戚が2トントラックでかけつけてくれ、有難く思っています。被災8日後にはみなし仮設も見つかり、入居することができました。

災害公営住宅には夫婦二人で申し込みをしましたが、昨年妻が亡くなり一人暮らしになりました。先日、災害公営住宅の内覧会に行き、入居準備を進めているところです。同じ災害公営住宅には知人もおり、年明けからの新生活を楽しみにしています。

(担当：山科 美栄子相談員)



元気だった頃の妻・満喜子と鹿児島県串人町の桜の名所にて

稲富 敏昭 様・椎屋 初子 様

水害の日は、店に泊まり込みで仕事をしていて、9時に目が覚めると目の前が川になっており、どうすることもできなかったのを覚えています。3日ほど店の中で座布団を敷いて寝ました。商工会が駅前に仮設商店街を作ると聞きつけ、応募したところ出店できることが決まり、仮設商店街モゾカタウンで営業しながら一緒に働いている妹と3人で再建に向かいました。モゾカタウンの皆さんは前向きな方ばかりで、自然と団結力が生まれ、昨年11月にモゾカタウンでお別れ会があった時には「1年に1回集まろう」と出店していた皆さんと約束しました。

2年前に条件の合う中古物件を見つけ、金銭的に余裕もなかったので自分でリフォームしたり店で使うテーブルや椅子を作ったり、いつになるか分からない開店の日を夢見てがむしゃらにやりました。新店舗は下原田町の国道沿いの元：焼肉屋を改装し、やっと1月初旬にオープン予定です。知人やお客さんにも色々気に掛けてもらい、たくさんの応援の聲が励みになりました。体の続く限り店をやっていきたくと思っています。営業は昼と夜。テイクアウトも可能です。辛麺以外にもメニューがありますので、是非皆さんお越しください。

下原田町字瓜生田 517 辛麺屋ひとよし (0966-24-8736)



右はスタッフの浦田雅子様（椎屋初子様の妹）

井口 秀明 様・しのぶ 様



被災当日、泥水に浸かった自宅を見て茫然自失し、涙も出なかったことを覚えています。実家、祖父母宅、夫の職場も被災し、悲しみに暮れました。しかし、沢山の方々からの助けや支え、また温かい励ましや心配の言葉を頂き、何とか乗り越えることが出来ました。本当に感謝しかありません。被災後、夫が入院したり、私が体調を崩したりと色々ありましたが、思い出の詰まった祖父母宅の跡地に自宅を再建し、みなし仮設から無事転居することが出来ました。

自分たちが被災してみて、改めて周りの方々の優しさ、有難さを痛感し、これから何か少しでも恩返しのようなことが出来ればと思いながら一日一日を大切に過ごしています。

(担当：正岡 光子・中村 ちか子相談員)

椎葉 弘子 様

「まさか！」と球磨川の水は越してはいないが道は泥水がながれています。その時若い男性の方が家のフェンスに梯子を掛け誘導してくれました。親族の家に身を寄せ、その時「市長の声」それでも球磨川添いの二軒の我家が全壊の状態とは思ってもせぬ、一日後に「大事な物」を家にとり帰り、悲しみは無く「負けるものか」と。でも女性で高齢の為、ボランティアさん始め、私を支えてくださった、100余名の方々に深く深く感謝しております。

この方々に報いる為にも、練習場だった家は解体し、住んでいた家を「ひとみ舞踊研究所本部」としてリフォームし、私の生きがいである舞踊を皆様へ感謝しながら頑張っています。本当にお世話になりました。

(担当：緒方 節子・地内 久美子相談員)



田代 幹雄 様・和子 様

相良村から引っ越してきて半年ほどで水害に遭いました。水害後は避難所ではなく娘宅に身を寄せましたが、いつまでも世話になるのも悪いと思い、仮設へ申込んだところ市営団地へ入居できると声がかかりすぐに引っ越しました。現在住んでいる市営団地はお店にも近く住みやすかったですし、窓が多くて明るく、周りの方もいい人ばかりで大変良くしてくれたのでこのまま同じ部屋に住み続けることも考えました。しかし、妻が腰を悪くし階段の昇り降りが難しくなり、今後の生活を考え、災害公営住宅を希望しました。今、少しずつ荷造りを始め新年からの引っ越し準備をしています。市内に息子も娘もおり、色々手伝ってくれるのでありがたいです。必要なものを少しずつ揃え、新生活を楽しみにしています。

〈先号のスマイル日よりで紹介した仏壇をお渡ししました。〉

お仏壇が無いからお位牌をお寺に預けていましたが、お仏壇をいただけることになり、やっとご先祖様を新しい家で供養でき、嬉しい気持ちでいっぱいです。

